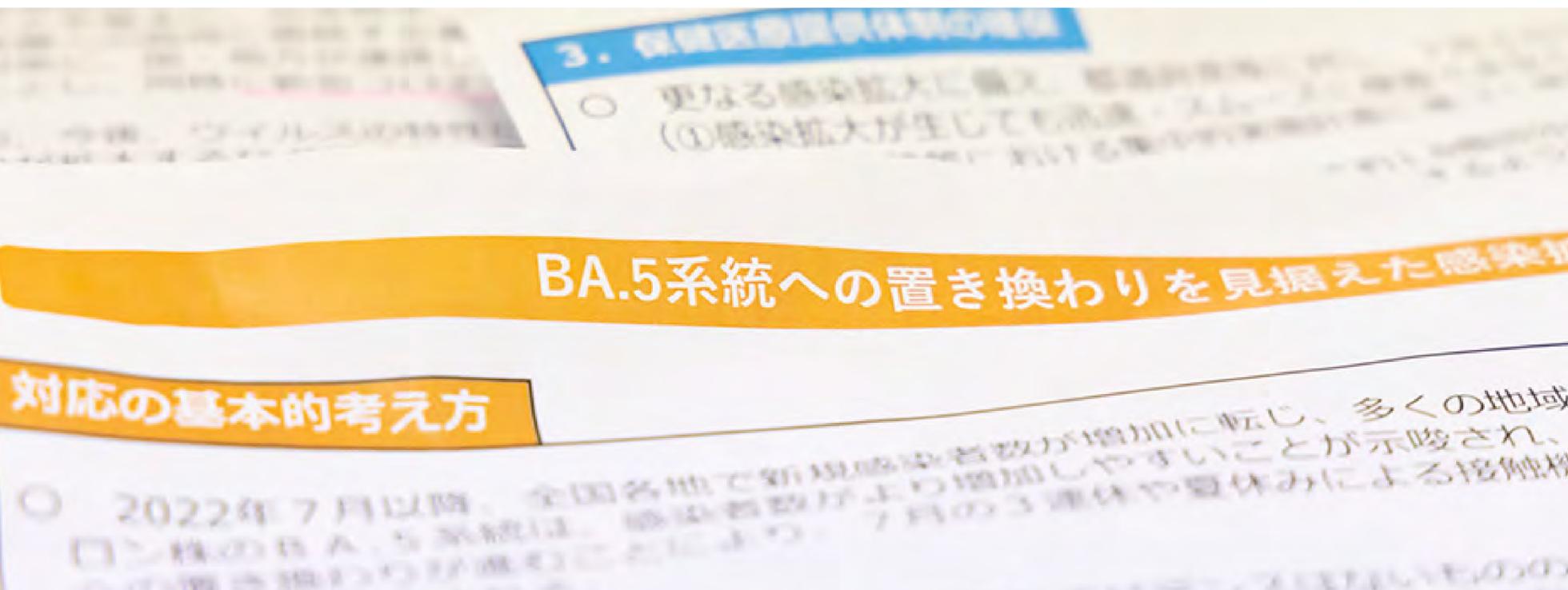


新型コロナウイルス“第7波”に対する健育会グループの対応

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



7月以降、全国的に新型コロナウイルス感染症の新規感染者が増加傾向にあり、政府は“第7波”と認めました。これに伴い、健育会グループでは第6波までの経験と知識をもとに、柔軟かつ適切な対応をとっていきたいと考えています。そこで理事長の私から、7月19日時点の感染状況と今後の対応策についてお伝えします。



新型コロナウイルス感染症は7月以降全国各地で新規感染者が増加し、オミクロン株BA.5系統への置き換わりが進んでいます。これを受け、内閣府の新型コロナウイルス感染症対策本部が、新たに感染拡大への対応を打ち出しました。

まず第7波の特徴については、既存のオミクロン株と比較した重症度の上昇は見られないとした上で、60歳以上の重症化率は、60歳未満の者と比べて著しく高いと伝えています。

これに対する政府の基本対応は、新たな行動制限を行うのではなく、社会経済活動をできる限り維持し、新型コロナウイルスと併存しつつ平時への移行を慎重に進めていくこと。さらに、医療負担に直結する重症化リスクのある高齢者を守ることに重点を置くとしています。

健育会グループではこうした政府の対応を踏まえ、現在行っている基本的なコロナ対策については制限をできるだけ強めることなく、継続していく考えです。



7月に入ってからの健育会グループの感染状況は、計59名（うち患者13名 感染割合0.58%、職員46名 感染割合1.17%-7月19日の時点）で、ほとんどが散発の感染ですが、2施設、介護老人保健施設オアシス21で13名（うち利用者8名、職員5名）、ねりま健育会病院で12名（うち利用者1名、職員11名）の陽性者が発生しており、クラスターになっています。ただし、これまで我々が経験してきたような何十名単位の爆発的な感染は現在起こっていません。また陽性者は職員に多く見られ、徹底した感染対策によって患者さんや利用者さんへの感染もしっかり防ぐことができています。

今後も引き続き、職員の感染予防対策を徹底し、院内での感染対策としてマスク着用、手洗いを励行するのはもちろん、院外のプライベートにおいてもマスクを外しての多人数での飲食など、感染の可能性が高い行動は慎むように指導していきます。また、職員に対する定期的なコロナウイルス検査もより強化しており、現在、各施設によって異なりますが、1～2週間に1度検査を実施中です。家族を持つ職員などの場合は特に、自身の安心にもつながっています。



入院患者さんのご家族による面会においては、第7波の流行以前に緩和の方針をとって直接面会を解除してきました。その方針については現時点でもできる限り変えるつもりはありませんが、急激な感染拡大によって中止を余儀なくされている病院や施設も出てきており、今後の動向次第で引き続き条件を見直す可能性もあります。

とはいえ面会は、患者さんや家族にとって一番の安心につながるものです。健育会グループでは、新型コロナウイルスの感染拡大が起こり、病院や介護施設で外部者の遮断をせざるをえなくなった当初から、直接面会に代わってオンライン面会を取り入れてきました。第7波の対応の中でも、オンライン面会を積極的に活用しながらご利用者、ご家族の皆さまの気持ちをできる限り尊重していきたいと考えています。



現在、健育会グループでは石川島記念病院がコロナ専門病床を持っていますが、7月から急激に入院患者さんが増え、毎日10名を超える患者さんが入院されています。また、西伊豆健育会病院のコロナ病床も稼働しています。健育会グループの病院施設で、重症化の可能性がある高齢の患者さんの感染が確認された場合は、行政と連携の上、石川島記念病院に速やかに入院できるよう現在体制を整えています。



第6波までの中で、グループの各病院や施設では、困難な局面も部署を越えて協力し合い、乗り越えてきました。また個人防護具の着脱訓練は当然のこと、患者さんやご利用者さんが感染した場合のゾーニング訓練を繰り返したり、他の病院・介護施設の感染状況を会議の中で常に共有したりしてきたことで、知識や対応力がついてきています。これにより第7波を迎えて以降、以前よりも現場ではスピード感を持って判断や対応ができていると感じています。今後の感染拡大に対しても、健育会グループの病院施設が一丸となって、柔軟かつ適切、迅速な対応をとっていきたいと考えています。